

学校は地域コミュニティの拠点、統廃合は子どもと地域の視点で

教育委員会が第1段階の「統廃合」検討対象としている小規模校7校を日本共産党市議団・市民団体が視察



「熊本市学校適正化基本方針」を策定

熊本市教育委員会は、今年6月に「熊本市学校規模適正化基本方針」を定めました。一部地域での学校の大規模化による教室不足の一方、子ども人口の減少に加え農振地域・山間部等における児童・生徒の減少による学級数減で複式学級化もすすんでいます。大規模校・小規模校、いずれも子どもたちの教育環境に様々な影響があるので、一定の基準で、統合・分離を検討するとしています。

「第1段階の検討対象校」

平成32年までの児童生徒数の将来推計で、複式学級がある学校、複式学級が見込まれる学校、過大規模校が見込まれる学校を「第1段階の検討対象校」としています。

【複式学級がある・見込まれる学校】

河内小白浜分校、松尾東小、松尾西小、中緑小、吉野小、川口小、松尾北小

【過大規模が見込まれる学校】

託麻南小、画図小、託麻東小、託麻西小、託麻中

「小規模」の特性を生かした授業・学校運営・地域との連携

少人数を生かした丁寧な指導、複式学級では授業も工夫されていました。大人数での交流が難しい反面、異年齢での交流や地域での交流をするなどの工夫がありました。子どもに目が行き届き、問題が発見しやすく、すぐに対応でき、どの学校でも「いじめ・不登校」はないとのこと。

PTAは両親ともに協力、各種行事は地域と一体で行われています。

ひとつひとつ学校や地域の考えも違います。統合は子ども・保護者・地域の声を大切に考えるべきです。



	児童数	クラス数	備考(クラスの内訳) *太字が「複式学級」
松尾東小	28	4	1・2年、2・3年、5・6年、知的学級
松尾西小	37	4	1年、2年、3・4年、5・6年
松尾北小	12	3	1・2年、3・4年、5年、(*6年在籍なし)
吉野小	61	6	1年、2・3年、4年、5年、6年、自・情学級
中緑小	45	4	1年、2年、3・4年、5・6年
川口小	87	8	1~6年は各1学級、知的学級、自・情学級
河内小白浜分校	19	2	(1~3年のみ) 1年、2・3年

(控室から)
記念碑だけになった母校

益田牧子

私の故郷天草では、町村合併が進み、今度は、小中学校の合併が進行中です。私の母校の御領小学校も、生徒数が減り、「白亜の校舎高くそびえる」と校歌に謳われた校舎も取り壊され、記念碑のみとなりました。

なんともさみしい限りです。子どもたちは、隣町の小学校へ、スクールバスで通わなければなりません。小学校のない町で、「若い人たちが子育てをするだろうか」と心配です。政治の中心だった役場も支所となり、人数も激減。文化の中心であった学校もなくなれば、過疎はますます急速に進むのではないかと思います。

熊本市でも、小学校の統廃合問題が提起され、市議団と市民団体が、対象校を訪問しました。(今週の市議会から)よりで特集複式学級のある小学校では、加配された先生だけでなく、1年生の先生が五・六年生の教材を持ち、校長・教頭先生も授業を担当され、できるだけ学年別で授業を行う努力がなされていました。直に訪問して、いじめも早く対応でき、学力面でも一人、ひとりに目が届く少人数学校の良さを知ることができました。

教育を「効率化」で計ってはならないと実感しました。加配教員を増やすなど改善をすれば、わが母校のように、廃校にならずに済むのではないかと思います。PTAや地域の皆さんと一緒に、学校を存続させたいものです。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階

NO. 910

2014年7月27日号

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

ホーム: http://www.jcp-kumamoto.com/



自費参加しました
益田牧子

平和の大切さを実感した「韓国歴史と平和の旅」

ナヌムの家訪問～悲惨を極めた日本軍『慰安婦』 の実相



多くの日本軍『慰安婦』被害者・ハルモニたちが眠るお墓とモニュメント

日本軍「慰安婦」被害女性が共同生活をしている「ナヌム(分かち合い)の家」を訪問しました。1995年、土地・建物の無償提供により、京畿道広州市の山や田んぼに囲まれた農村地域に移転。日本軍『慰安婦』歴史館を見学し、ハルモニたちの記憶をもとに描かれた絵に心打たれました。

当事者からのお話を聞く機会はありませんでしたが、韓国在住の日本人ボランティアの女性から、一人一人のハルモニたちの被害の経過・実相をお聞きしました。まだ14歳～16歳の少女達の人生を壊した日本軍・政府の罪深さを痛感しました。

多くの犠牲者を出した「西大門刑務所」跡歴史館 民族独立と民主化運動へのすさまじい弾圧



死刑場跡地と受刑者を見送ったポプラ

西大門刑務所は、日本の植民地の下で、1907年建設。3・1運動など日本からの独立を求める運動家が多数検挙・投獄されています。厳しい拷問の末に命を落とした民族独立活動家の写真が、1つの部屋いっぱい張り出されていました。独立後の独裁政権の下では、民主化運動家を弾圧。1998年からは、「歴史館」として、復元・整備され、独立と独裁政治に抗した苦難の歴史を展示しています。

「水曜集会」参加～20年以上続く日本大使館前行動

日本大使館前で、雨が降っても、雪が降っても、病に伏していても毎週水曜日・12時から行われている「日本政府への謝罪」を求めている「水曜集会」。1992年から行われており、私たちが参加したのは、1134回目でした。2人のハルモニも参加し、若い高校生らしい男女が多く参加しての活気のある集会でした。

主催者の発言からは、「アベ」「アベ」と批判をする箇所が何回もありました。日本大使館は、静まりかえっていましたが、「戦争と女性の人権博物館」見学により、日本軍『慰安婦』への非道さを再認識しました。

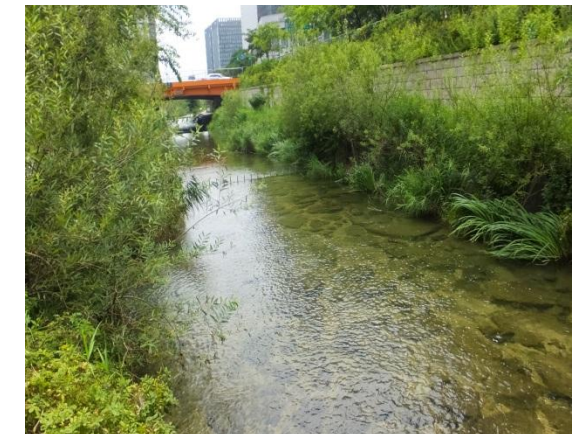


日本大使館前 1134 回目水曜集会
2人のハルモニ・参加者と少女像

ソウル市の「清溪川」遊歩道散策 街中に「清流」が復活し、憩いの場に

日本政府の植民地政策により、韓国民に与えた人権侵害の数々に衝撃を受けた旅行(7/7~10)でした。こうした中で、ソウル市長の英断により、復活した清溪川の清流に癒されました。また、韓国料理(プルコギ、冷麺、参鶏湯、石焼ビビンバ、骨付きカルビーとたくさんのキムチ)を堪能しました。

また、日本の近・現代史を学ぶ必要性を痛感した旅でした。また訪ねてみたい魅力のある韓国でした。



ソウル市の街中を流れる清溪川

日本共産党市議会だより 2014年7月27日号